

経営理念		学校教育目標…力いっぱいがんばる子の育成 期待する児童像…進んで学ぶ子、仲よく助け合う子、元気でたくましい子					資料1		
【評価基準】4…十分達成できた、3…ほぼ達成できた、2…あまり達成できなかった、1…全く達成できなかった									
中期経営目標	短期経営目標	班	担当	具体的な取組	評価項目	項目別評価	達成状況	総合評価	学校関係者評価(意見・改善策等)
○ 基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、児童の活動を主体とした授業展開を柱として、学習の喜びと成就感を味わわせ、進んで学ぶ態度の育成に努める。	・ 児童の「わからない」「できない」を的確に捉え、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る。 ・ 4段階の授業スタイル（見通す・追求する・深める・振り返る）を基本に、児童の主体的な活動を大切に授業展開の工夫を図る。	1班	榎本酒井伊藤英辻	① プレテストや既習事項の確認を通して、児童の実態を把握する。 ② 児童の発言を予想し、それらに対する適切な指導・助言を準備する。 ③ 話し合いの中で、児童相互に正しい考え方や、間違いの正しい方などを教え合い、学習の遅れがちな児童が、理解を深めることができるようにする。 ④ 1時間の授業や単元における理解の状況を把握し、次時の指導に生かす。 ⑤ 計算コンクールを実施して、基礎学力の確認をし、夏・冬休みに理解不十分な児童を対象に算数教室を実施する。 ⑥ 児童の主体的な活動を取り入れた授業研究を計画的に行い、研究協議会において共通理解を図る。	① 各単元に入る前に、既習事項の確認をしたか。 ② 児童の発言や解答を予想し、必要な指導・助言を準備したか。 ③ 学習の遅れがちな児童の理解を深めるような話し合いが行われたか。 ④ 理解の不十分な児童を把握し、家庭課題や補充、次時の授業で補うように計画をしたか。 ⑤ 計算コンクールを実施して、基礎学力の確認ができたか。 ⑥ 児童の主体的な活動を取り入れることができたか。	職員アンケート ①3. 2 ②3. 1 ③3. 3 ⑤3. 4 ⑥2. 9 保護者アンケート ③3. 2 ⑤3. 1	① 既習事項の確認は、各単元ごとの内容に応じて、おおむね実施されている。 ② 比較的多くの授業で解答予想や、指導・助言ができるように考えられている。 ③ それぞれの単元や各時間の内容に応じて、話し合いの時間が設定され、理解を深めるような話し合いがおおむね行われた。その結果が分かりやすい授業につながっていると考ええる。 ④ 理解の状況を把握し、その状況に応じて家庭課題や補充で補ったり、授業計画を変更するなどして、次時への指導に生かすことがおおむねできている。 ⑤ 計算・漢字コンクールを毎学期実施し、基礎学力の不足している児童には補習や追試を実施している。その結果が学力の向上につながっていると考ええる。 ⑥ 児童の主体的な活動については、教科や単元によっては取り入れることが難しいものもあったので、検討会などを実施し、職員全体で取り組む必要があると考える。	3. 2	
	・ 習得した知識・技能を活用し、言語活動の充実を図りながら、思考力・判断力・表現力等を育成する。	2班	櫻井吉川鈴木	① 本時の目標を、よりわかりやすく明確にするための提示の仕方を工夫する。 ② 校舎内に『志水学習三か条』の掲示をし、授業や集会などいろいろな場面を通して、考えを伝え合うことができるようにする。 ③ 「教え合い・学び合い」を目指して、グループ学習やペア学習の活動を充実させる。	① 本時の目標を、よりわかりやすく明確にするための提示の仕方が工夫できたか。 ② 児童が考えを伝え合う場面を設定し、学年に応じた指導や助言をができたか。 ③ 児童が進んで考えを伝え合うことができるようになってきたか。	職員 ①3. 1 ②2. 9 ③2. 8 児童 ①3. 3 ②3. 2 ③3. 3	①本時のねらいを把握し、目標を分かりやすく明確にするために、提示の仕方を工夫することがおおむね達成できた。 ②児童が考えを伝えあう場面を設定し、学年に応じた指導や助言ができたと回答した職員は70%であった。単元を見通した学習活動についての構想をより一層充実させていきたい。 ③90%近くの児童が進んで考えを伝えあうことができたと回答している。今後も学年に応じた指導を継続し、伝えあうことによってより考えが深まるような指導を工夫していく必要がある。	3. 1	
○ 自己有用感を醸成する活動を通して、お互いを思いやる気持ちや態度を育成するとともに、児童の自主性・主体性を養うための活動の充実を図る。	・ 道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通じて道徳教育の充実を図る。 ・ 縦割り班活動等を通して自己有用感を醸成し、良好な人間関係を育成する。 ・ 教育相談活動を充実させ、いじめの根絶に努める。	3班	笠巻森下松田小塚	① 道徳の授業研修や教師間の授業公開により教師の道徳授業の指導力を高める。 ② 道徳の授業を体験活動（行事や教科）と関連づけて計画・実施する。 ③ 「わたしたちの道徳」やワークシート等を活用し、子どもたちが今までの生活を振り返ったり、今後の生活に生かしたりしていこうとする心を育てる。 ④ 道徳の授業研修のまとめとして、3学期に授業公開をする。 ⑤ 道徳資料の整備や年間指導計画（行事や各教科との関連から）の見直しを行う。 ⑥ 縦割り班活動（清掃、集会、なわとび運動など）を通して、異学年の児童と交流を深めるとともに、学年に応じた役割分担を行う。	① 道徳の時間の指導は計画的に行うことができたか。発問や展開の工夫ができたか。 ② 道徳の授業で考えたことを、児童が日常生活の中で生かそうとすることができたか。 ③ 児童が、道徳の時間に、体験的な活動と道徳的価値とを関連させて考えることができたか。 ④ 縦割り清掃・集会等の活動を通して、自己有用感をもたせることができたか。	職員 ①2. 6 ②2. 4 ③2. 4 ⑤2. 5 ⑥3. 7 保護者 ④3. 5 ③3. 1 ②3. 1 児童 ④3. 5 ②3. 3	① 道徳の授業研修や教師間の授業公開など、指導力の向上を図るための努力はされている。しかし、必要に応じて年間計画の整理や見直しを行うことが十分ではないので、学年間でよく話し合い、進めていく必要があると考える。 ② 道徳の授業で児童の道徳的実践意欲を高めるため、資料や授業展開の工夫などを行っているが、道徳的実践意欲の高まりが実感できるようになるまでには至ってないので、今後も継続的な取組が必要である。 ③ 道徳の授業を一年を通して計画的に実施するということが不十分なようなので、行事や教科との関連を考えて、計画的に行えるようにする必要があると考える。 ④ 縦割り班活動を通して、異学年の児童との交流を深め、自己有用感をもてるようになってきたと考えられ、おおむね目標が達成できたと言える。	3. 0	・ 縦割り班の活動はわが子からよく話を聞く。とてもよい活動だと思う。下級生が上級生に教えてもらうことで、上級生になったときに教える立場に自然になることができる。自己有用感が育まれるのをわが子を見ていて思う。異年齢の子と気軽に話せる雰囲気が出てきている。 ・ 学校が楽しいと思う子どもが多いのは素晴らしいと思う。
	・ 集会やあいさつ運動など、児童会を中心とした児童主体の活動への支援・充実を図る。 ・ 行事や諸活動における目標を明確にし、事前事後の指導を重視した展開を工夫する。	4班	山下井上澤井	①代表委員会に、学校みまもり隊とリサイクル隊をもうけ、主体的な活動をするための手立てを話し合わせ、具体化させるとともに、意欲を高めるように工夫する。 ②企画運営委員会で「お楽しみ集会」の内容について話し合い、必要に応じて代表委員会のメンバーに協力を呼びかけ、集会を進める。 ※1年生を迎える会・・・全校で1年生の入学を祝う。 ※お楽しみ集会・・・縦割り班の班長を中心にウォークラリーを行う。 ※運動会の応援合戦・・・6年生が中心になって、運動会を盛り上げる。 ※クリスマス集会・・・かざり付けやゲームなどの進行をする。 ③運動会、秋の遠足・校外学習、志水祭などの行事に、一人一人の児童が進んで取り組めるようにするために、自分のめあてや取り組みを意識できる自己評価カードを作成する。	① 企画運営委員会、代表委員会のメンバーが活躍できていたか。 ② 児童が、進んでお楽しみ集会に取り組んだり、あいさつ運動やリサイクル活動に参加したりしていたか。 ③ 児童が、運動会、秋の遠足・校外学習、志水祭などの行事に進んで取り組めたか。	職員 ①3. 5 ②3. 1 ②2. 8 ③3. 8 保護者 ②3. 1 ③3. 6 児童 ②2. 6 ②3. 6 ③3. 5 ②3. 4 児童自己評価カード 運動会 3. 8 学習発表会 3. 8	①学校みまもり隊の活動としては、昨年に引き続き「あいさつやってみ隊」を実施した。多くの児童が参加し、進んであいさつしようとする児童が増えてきた。また企画委員の児童から意見が出て、廊下・階段でのルールを守るよう呼びかけたり、くつのかかとをそろえようと呼びかけたりすることができ、主体的に活動できた。 ②1年生を迎える会・運動会の応援合戦・クリスマス集会など、企画から積極的に意見を出し合い進めることができた。クリスマス集会のツリーでは、児童の意見を取り入れ、全校に呼びかけ折り紙を貼って作成することができた。 ③運動会・学習発表会では、「ふりかえりカード」を活用し、自己評価を行った。どちらも全体で3. 8と高い結果となった。児童が行事に対して進んで取り組み、満足度が高いことが分かる。	3. 3	・ あいさつボランティアの活動は大変よいと思う。 ・ ペットボトルキャップやアルミ缶回収については、家庭の考え方があるので難しい。

【評価基準】4…十分達成できた、3…ほぼ達成できた、2…あまり達成できなかった、1…全く達成できなかった

中期経営目標	短期経営目標	班 担当	具体的な取組	評価項目	項目別評価	達成状況	総合評価	学校関係者評価(意見・改善策等)
○ 家庭、地域との幅広い連携・協力体制を築くとともに、開かれた信頼される学校づくりに努める。	・ 地域や外部ボランティア、ゲストティーチャー導入を計画的かつ積極的に進め、地域との交流を含めた、授業の質の向上を図る。	5 班 水野 後藤 早川	①ホームページや学年便り、PTA委員会等を通じて、家庭・地域から人材を募集する。 ②総合学習や教科等で地域の人材や施設、出前講座などを活用する計画を立て、実施する。 ③出前講座後、子どもたちに活動を振り返らせたり、自己評価をさせたりして出た意見を、今後の授業作りに生かす。	①ホームページや学年便り等を通して、必要に応じその都度、募集案内を出すことができたか。 ②地域や外部ボランティア、ゲストティーチャーなどの活用計画を立て、実施することができたか。 ③出前講座後、子どもたちに活動を振り返らせたり、自己評価をさせたりして出た意見を、今後の授業作りに生かすことができたか。	職員 ② 2. 9 ③ 2. 5 保護者 ① 3. 2	①②ホームページ、学年便り等での募集をすることはなかったが、年間の学習計画の中で、必要に応じて出前講座を行うことができた。 1年（人形劇・昔の遊び・フラダンス・絵の具指導）2年（食育）3年（リコーダー指導・カゴメの食育講座・人権教育）4年（玉ねぎ収穫・バッカー重見学・下水道・豊山太鼓・環境教育・版画指導・CAP講習会）5年（五平餅づくり・情報モラル・魚料理・和楽器・ものづくり<表装・左官>）6年（和菓子作り・薬物乱用・租税教室・まちづくり・明治チョコ）全校（県警音楽隊）4・5・6年（福祉実践教室）5・6年（合唱指導）※下線は地域の方によるもの ③授業後、作文等で振り返りを行ったが、今後の授業づくりに生かすところまでは至らなかった。教科・領域等での出前講座の位置づけを明確にし、目標達成に向けて効果的な活用方法を考えていきたい。	2. 9	
	・ 教育活動の客観的な評価、次につながる学校評価のあり方を検討し、実施する。	6 班 教頭	① 学校評価に関する具体的な取組等について、意見交換をする場を設ける。 ② 各班の班別評価表を集約し、自己評価書を作成する。 ③ 自己評価書をPTA委員、学校評議員及び学校関係者評価委員に公表し、その評価結果をまとめて、次年度に向けた改善方策を全教職員に提示する。	① 全教職員に、学校評価の進め方について提案することができたか。 ② 自己評価書の項目は、適切であったか。 ③ 学校関係者評価委員会での評価結果を踏まえた改善方策を示した資料は、適切であったか。	職員 ① 2. 9 ② 3. 1 保護者 ① 3. 3	学校重点努力目標に従って班を構成し、班ごとに、具体的な取組・評価項目・アンケート項目・達成状況について考えた。職員全体で検討する時間が不十分だったため、全体での取り組みに至らなかった項目もあった。次年度は、検討する時間の確保とともに、全職員が取り組みやすいように提案していきたい。 保護者からは、「学校が目指していることに、共感できる」の項目で、84%の方が「よくあてはまる」「どちらかというとはまる」と回答していただいた。今後も、家庭や地域と連携を図るため、開かれた学校づくりに努めたい。	3. 1	
○ 共通理解を図りながら教職員相互の信頼を深め、何事にも協働体制で臨む。	・ 仕事分担を適切かつ明確にし、お互いに協力し合える体制づくりを行う。 ・ 職員それぞれの経験等が有機的に機能し、誰もが自由に意見を出せるような民主的な職場づくりに努める。	7 班 校長 遠藤	「学校」が有する仕事を明確にし、適正に分担する。 ① 校務分掌の見直しをする。 ② 負担が偏らないように、各種委員会の構成メンバーを見直す。 ③ 各仕事に適材適所の人員配置をする。	① 仕事が特定の人に集中していないか。 ② 仕事が重複せずに系統づけられているか。 ③ 仕事の相関関係がうまくでき、お互いに協力し合える体制になっているか。 ④ 誰がどの仕事の担当か、一目で分かるようになっているか。	職員 ① 2. 4 ② 2. 6 ③ 2. 8 ④ 2. 8 保護者 ① 3. 3	職員アンケートでは、どの項目も昨年度より0.1から0.2%下がった。校務分掌を見直し、仕事が集中する担当には複数配置するなど協力しやすい体制づくりに努めた。また、若手教員が協力して取り組むことで育ち合う環境づくりに努めたい。 保護者アンケートでは、「さまざまな活動に教職員全体で取り組んでいる」という項目で、「よくあてはまる」「どちらかというとはまる」が84%を占めている。今後も、教職員間の意思疎通を図る場を設け、連携して取り組んでいきたい。	2. 8	・ 先生方の仕事量の多さを感じる。事務処理に関わるような仕事に費やすエネルギーを子どもに付けてほしいと思う。 ・ 先生方の評価が厳しい。会社では、残業をしない、ワークライフバランスを大切にしていこうという方向である。うまい組織運営をお願いしたい。
○ 現職教育の充実を図り、互いに学び合うことで、教職員としての資質向上をめざす。	・ 学習指導要領の趣旨を踏まえ、授業力向上に向けた授業研究に取り組む。 ・ 本校の児童の実態、職員の実情に応じた研修の場を積極的に設定し、教職員としての力量向上に努める。	8 班 渡邊 森口	① 年間授業研究計画に基づき、低・中・高学年部会で年間各2回の授業研究を行い、研究協議会をもつ。学習指導要領の趣旨を踏まえ、話し合い活動を取り入れた授業展開を心がけ、基礎・基本の充実と、「読む」「書く」力の育成を図る。 ② 年間計画を立て、現職研修の時間を原則木曜日の授業終了後に設定し、教職員の力量向上に努める。	① 言語活動を充実させるための授業展開に心がけ、各学年部会の目標に沿って、授業力向上に向けた授業研究に取り組んでいるか。 ② 教職員の力量向上のための現職研修は充実しているか。	職員 ① 3. 1 ② 3. 1 保護者 ① 3. 3	① 授業研究を年6回（国語3回・道徳3回）行った。国語科では、物語文での心情の変化、説明文での接続詞の働きや要点をまとめるためにワークシートの工夫を図ったり、道徳では、資料の内容をホワイトボードやICT機器で提示する工夫をしたりした。言語活動の充実を目指し、各部会での話し合いを重ねることができた。話し合い活動を取り入れた授業展開について、成果と課題を明確にしていきたい。 ② 7月には学習発表会に向けて劇の指導方法について、12月には道徳の指導について現職研修を行った。道徳研修では、外部講師の柴田八重子先生を迎え、「成長実感を大切にする道徳授業」をテーマに、模擬授業を行った。発問の仕方や指導過程の在り方について学び、教員の力量向上につなげることができた。今後も、外部講師の選択と研修内容のさらなる充実を図っていきたい。	3. 2	

学校関係者評価(その他の意見・改善策等)

- ・キャリア教育について。「おやじの会」を巻きこめば、もっといろいろなことができると思う。お父さんたちはいろいろな仕事をしている。玉ねぎの収穫もその一つだったと思う。
- ・豊山町の地域の多様性を大切に、学校へ依存するだけではないと思う。子どもにはいろいろな人に関わってもらいたい。
- ・三菱重工も地域に密着した活動を考えている。小学生の間は、もっと希望や夢をもてる、理想がもてる教育が必要ではないか。
- ・職員アンケートで、「あてはまらない」の回答があるのが気になる。
- ・アンケートの質問項目で答えにくいものがある。検討してほしい。
- ・困ったときに先生たちに相談できない子どもがいる。一方、「先生たちはいじめや生活の指導をきちんとしてくれている」と考えている。メンタル面での評価の方法は難しい。
- ・いじめについて。本人がいじめととるかどうかが、子どもが言いたくない場合もある。先生と子どもの距離感もあると思う。担任以外の、例えば保健の先生の実在も大切だと思う。